

第14回

「多摩川とくらし」

平成22年（2010）

私たちが日常親しんでいる多摩川は、古くから漁業、用水、水運、砂利採取、行楽など、様々なかたちで私たちのくらしに関わってきました。本講座では、多摩川流域のくらしについて、考古学・歴史学・地理学・民俗学など、いろいろな分野の成果から学びました。

- | | | | |
|------|-----------|------------------------------|----|
| □第1講 | 9月29日(水) | 多摩川と武蔵国府―最新の発掘成果から― | 44 |
| | | 講師 江口 桂（府中市文化振興課） | |
| □第2講 | 10月13日(水) | 多摩川上流域における開発と水害―江戸、明治時代を中心に― | 46 |
| | | 講師 増渕和夫（川崎市教育委員会） | |
| □第3講 | 10月27日(水) | 見学会 羽村堰に仕組まれた洪水への工夫 | 48 |
| | | 講師 河村康博（羽村市郷土博物館） | |
| □第4講 | 11月10日(水) | 多摩川の鮎漁と行楽―日野市域の川漁の様子と玉川亭― | 50 |
| | | 講師 金野啓史（日野市文化スポーツ課） | |
| □第5講 | 11月24日(水) | 府中用水と流域のくらし | 52 |
| | | 講師 清水 周（国立市教育委員会） | |

定員 120名

場所 国分寺労政会館（第3講は見学会、羽村市郷土博物館周辺）



玉川上水羽村取水堰

平成22年9月29日 午後1時30分～3時30分

第1講 多摩川と武蔵国府

—最新の発掘成果から—

江口 桂（府中市文化振興課）

はじめに

- ・多摩川にさらす手作りさらさらに名にそこの児のここだ愛しき
（万葉集 巻14-3373）
- ・赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山
徒歩ゆか遣らむ
（万葉集 巻20-4471）

●多摩川の語源（『東京都の地名』日本歴史大系13 平凡社）

●多摩川古流路～多摩川水害と低地部の頻繁な地形改変
⇒微高地上への居住

●多磨郡

1. 武蔵国府設置前夜～古墳・集落・生産基盤から～

●継続的な集落形成の条件
その基盤となる土地と生産手段の選択が重要

●群集墳と首長墓の分布
7世紀中葉に大きな画期

●集落の分布と変遷
7世紀後半急激な増加＝集落の再編背景にあったものは？

2. 武蔵国府の設置

●地方行政組織の成立を目指して
全国の国府と立地

●武蔵国府はなぜ府中に置かれたのか？

3. 武蔵国府の最新発掘成果

（1）東国の国府と武蔵国府

水と緑のネットワークその1

●東国の国府の景観

- ・国府域の具体的なイメージ
- ・国府の諸施設と条里地割との関係

（2）都から来た国司と国司館

JR府中本町駅前発掘調査の成果

4. 武蔵国府とその周辺

水と緑のネットワークその2

●古代における河川の維持管理（難しい課題）

●多磨郡の集落の分布と特徴

参考文献

大橋康夫2010「国府成立と出雲国の形成」
『出雲国の形成と国府成立の研究』

関東条里研究会ほか2005『シンポジウム
関東条里研究の現段階資料集』

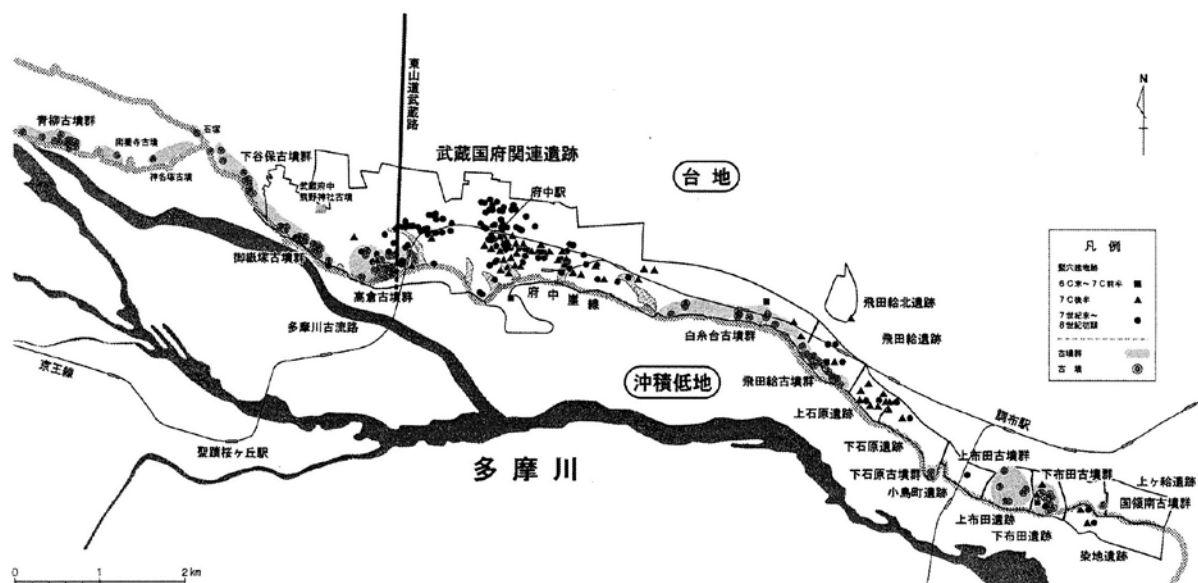
国立市教育委員会2005『四軒在家遺跡Ⅱ』

古代交通研究会1997『古代交通研究第6号
シンポジウム「交易と物流」』

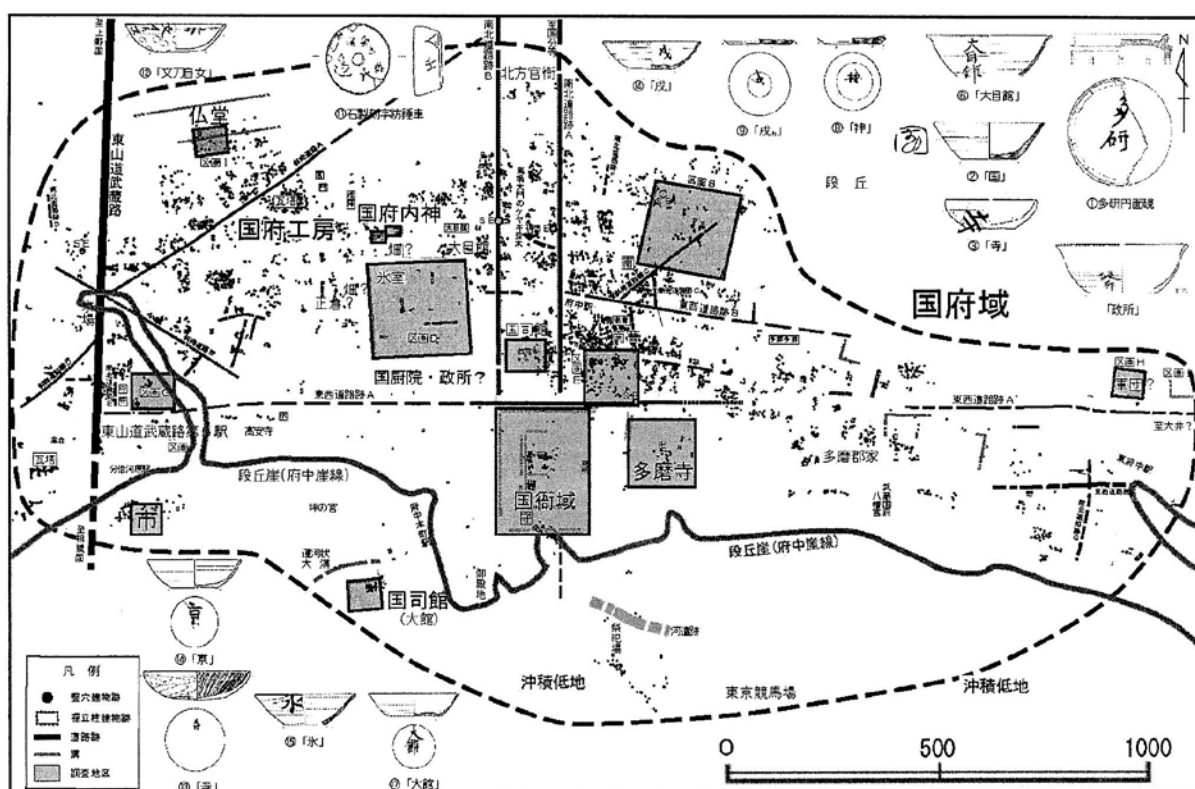
日本中央競馬会東京競馬場・府中市教育委員会・府中市遺跡調査会2005『武蔵国府
関連遺跡調査報告35』

日野市落川土地区画整理組合1998『おちかわ』

府中市教育委員会・府中市遺跡調査会
2009『武蔵国府関連遺跡調査報告35』



多摩川中流域左岸の古墳（群）と集落の分布図



武蔵国府出土墨書土器と国府域の復元図

平成22年10月13日 午後1時30分～3時30分

第2講 多摩川上流域における開発と水害

—江戸、明治時代を中心に—

増渕 和夫（川崎市教育委員会）

I. 近世は山野荒廃の時代、はげ山と水害多発

1. 古くは田上山地

田上山地は大津市田上・上田上の大戸川流域の山間部

2. 徳川幕府

・1622年（元和8年）山林竹木の伐採などの規制

・1638年（寛永15年）関東山野巡検使

・1666年（寛文6年）諸国山川掟

3. 熊沢蕃山 元和5年（1619）～元禄4年（1691）

『宇佐問答』『集義外書』

「諸国山川掟」に先立つ、岡山藩における蕃山の治山治水思想の実践

4. 各藩「山法度」

II. 江戸初期は大開発時代、城下町建設、その後は増収へ

III. 草肥農業の進展

（水本邦彦2003 草山の語る近世日本史 リブレット52 山川出版）

1. 成形図説（19世紀初頭、薩摩藩が農業振興のために編纂）

2. 野火の蔓延

焼畑農業が野火の主要因ではない。毎春行われる野焼き・山焼きが野火の原因。

野火・山焼きは、農民たちにとって、田畑の肥やしや稈・屋根葺き用の萱取得のために不可欠の作業。

3. 刈敷の必要量

（所三男1980 近世林業史の研究 吉川弘文館9）

全国的広がりでの草山・柴山化は、膨大な草肥需要に対応した景観であった。

4. 砂山化、はげ山化

過剰な森林利用は、砂山化、はげ山化を生み、山地崩壊、洪水激化の要因となったとされる。

近世は現代からみれば、各地に草山やはげ山が広がり、現在の「里山」のイメージからは程遠い景観であったことが明らかになっている。

IV. 開発行為のひとつとしての林業

1. 多摩川洪水史

2. 林業

2-1. 16～17世紀

（1）江戸時代初期

・1590年（天正11年）「諸州古文書巻3ノ下」に富士山関所用材の高尾山よりの伐採とあるのが、文献記録では最も古い。

・植林

沢井、青梅黒沢山、御岳山、栃久保村で、17世紀前期から規模は大きくないが植林が行われ、このことは当地域における木

材への需要の高まりを示すと思われる。
また、伐採地への植林でなく、秣場など「無木立地」への植林であるのは、手頃なところから植林を開始したことを示す。

- ・炭の需要拡大
- ・伐採
- ・入会論争

(2) 江戸建設

(3) 「明暦の大火」

2-2. 江戸時代中期以降

19世紀になると植林の規模や形態も変化し、大型化・一斉化も目立つが、全体的には600~1000本程度の植林が普通であった。

3. 伐採樹
4. 育成林年生産額
5. 植林地
6. 伐採量
7. 江戸の火災
8. 石灰と燃料林
9. 薪炭林
10. 明治期

V. 多摩川上流域の森林

・白丸村の場合

「白丸村絵図」と文書から推定する。絵図では、多摩川北岸に、尾根筋にマツタイプの植生が、ツクマの東にある山麓部に猿穴とある山の稜線にマツタイプ以外にモミタイプや広葉樹タイプの植生が描かれていること、棚沢村と西隣する花折戸南斜面と南岸城山北斜面の馬草（抹）場があること等が注目される。

・氷川村の場合

「氷川村他十五か村絵図」によると、日向沢ノ峰から七ッ石山までの埼玉県・山梨県との県境をなす多摩川北側を取り囲む山地尾根は、カヤや笹植生であり、この内、日向沢ノ峰から蕎麦粒山と浅間峠から天目ノ峰にかけては秣場であった。

VI. 水源林の誕生

1. 柳沢峠と萩原山

2. 東京都の水道水源林

3. 東京都水源林の歴史的形成

3-1. 無立木地の広がり

3-2. 水害への危機感が水源林を生んだ

VII. 森は増えたか

第二次世界大戦前から戦中にかけて、森林伐採が進み、それが戦後の水害を招いたという見解もあるが、その後拡大造林期を経て、用材輸入時代となり、森林管理上から質的に日本の森林は危機的状況にあるともいわれる。

ここでは、現在の日本の森林状況を報告する余裕はないため、1900年から85年の間、農業的土地利用と森林はほとんど変化しておらず、これは荒地（大部分ははげ山）の緑化による森林の増加と都市や道路の開発による森林の減少が相殺されていることを示すという見解（太田猛彦「生態系と調和した砂防の基本的な考え方」砂防学会誌1997）を紹介するに留める。

平成22年10月27日 午後1時～4時30分

第3講 見学会 羽村堰に仕組まれた洪水への工夫

河村 康博（羽村市郷土博物館）

羽村駅 ⇒まいまいず井戸 ⇒中里介山の墓 ⇒玉川上水羽村堰 ⇒羽村市郷土博物館
⇒羽村駅



見学会のコース



まいまいず井戸



禅林寺に下る坂の途中、馬の水飲み場



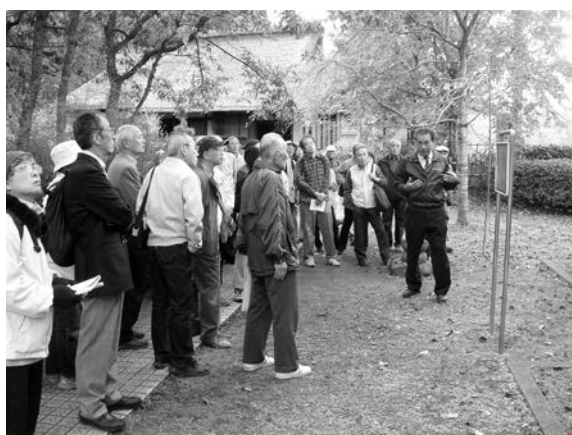
羽村取水堰、玉川兄弟の像



羽村市郷土博物館 展示室での見学



羽村市郷土博物館下田家住宅前の庭での見学



羽村市郷土博物館下田家住宅前の庭での見学

平成22年11月10日 午後1時30分～3時30分

第4講 多摩川の鮎漁と行楽

— 日野市域の川漁の様子と玉川亭 —

金野 啓史（日野市文化スポーツ課）

1. 多摩川とアユ

（1）江戸時代のアユ漁

江戸時代の多摩川：江戸で消費する川魚の主要な供給地。殊に中流域の村々では、「上ヶ鮎」「御菜鮎」を将軍家に献上。

（2）明治以降のアユ漁

日野市域の川漁：明治21年に日野町漁業組合が組織される。

漁の主な対象は商品価値が高いアユ。漁期はアユが溯上する5月頃から降下する9月末まで。

戦前の日野の川漁：大半が農業や商売の合間の副業として行なわれた。

（3）専業川漁師の登場

昭和29年頃から専業の川漁師が活動を始める（鈴木由太郎氏、鈴木保氏、高木五郎氏）。

2. 様々な漁法

（1）ヒッカキ

（2）ヨセアミ漁（寄せ網漁）

（3）セバリ漁（瀬張漁）

（4）ハネアミ漁（跳ね網漁）

（5）ペラアミ漁

（6）ウナワ漁（鵜縄漁・ハネッピキ）

（7）投網漁

3. 行楽としてのアユ漁

（1）玉川亭と鵜飼漁

[玉川亭]

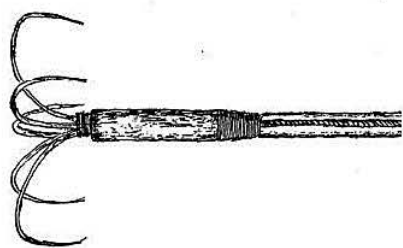
明治20年代に、日野に玉川亭、立川に丸芝館が開業。客は母屋で浴衣に着替えて屋形船に乗り、鵜飼を見て、アユ料理を賞味しながら一日を過ごした。玉川亭は中央線を利用して東京方面から訪れる客が多く、関東大震災前後が最盛期。

[鵜飼漁]

多摩川での鵜飼は江戸時代から行われていた。カチウ（徒歩鵜）と呼ばれる。船は使わず、日中に3人が川に入って行った。

（2）多摩川の川遊び

- ・ 都心から多摩川に向かう郊外鉄道の発達
⇒多摩川への行楽客を運ぶ
- ・ 玉川電気鉄道：明治40年、渋谷～玉川間
開通
- ・ 終点の玉川（二子玉川）：川魚専門の料亭が十数軒
- ・ 屋形船：投網で捕ったアユをその場で調理して賞味
- ・ 小田原急行電鉄：昭和2年、新宿～小田原間開通 ⇒登戸や和泉多摩川付近にもアユなどの川魚の料亭が登場
- ・ 川狩り：団体で川漁を見て、その魚を食べる行楽 = 農家の副収入



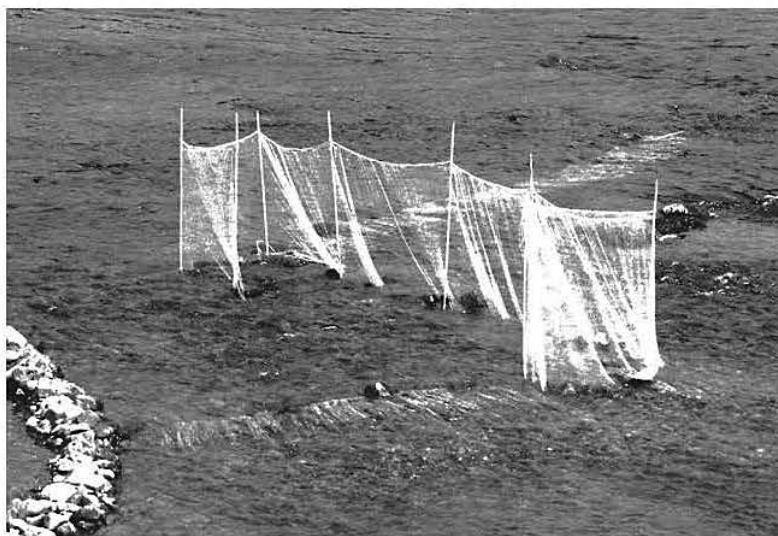
(安斎忠雄『多摩川中流域の漁撈具』
1985 立川市教育委員会)



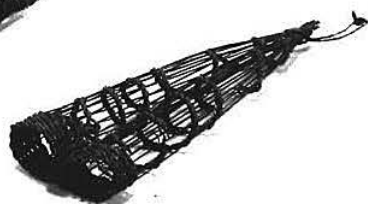
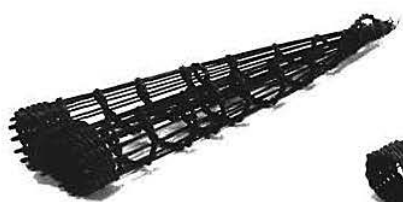
箱眼鏡



シラタ



セバリ漁（瀬張漁）の仕掛け



モジ



アユカゴ（鮎籠）

平成22年11月24日 午後1時30分～3時30分

第5講 府中用水と流域のくらし

清水 周（国立市教育委員会）

1. 府中用水の自然



オイカワ

2. 地形

①関東地方の地形

- ・ 洪積世（100万年前）の頃、関東平野一帯は広く浅い海
- ・ 海進・海退の後、諸河川が武蔵野礫層をつくる
- ・ 関東ローム層の形成（10数万年前から）…箱根山・富士山などの火山活動による
- ・ 武蔵野台地の形成…上総層群の上に多摩川などが礫を運び堆積した礫層
- ・ 地盤の隆起や海面の下降により河床が侵食され、階段状の河岸段丘がつけられた。

②くにたちの地形

- ・ 三つの河岸段丘（武蔵野段丘、立川段丘、青柳段丘）と沖積低地
- ・ ハケと湧水

3. 府中用水の成立

①武蔵野地域の水田開発

- ・ 府中付近に古代条里制遺構が残存

- ・ 『吾妻鏡』1241（仁治2）年10月22日の条「以武蔵野可被開水田之由議定訖」

- ・ 本格的な水田開発は江戸時代から

②府中用水の成立

- ・ 府中用水…七ヶ村用水、七カ村組合用水（府中宿の本町・番場宿・新宿と是政村、上谷保村、下谷保村、青柳村）
- ・ 府中用水の成立時期（『新編武蔵風土記稿』四ツ谷村の項）
- ・ 府中用水の御普請…享保7（1722）年～寛政元（1789）年に42回の用水普請、川除普請

4. 府中用水土地改良区

①七ヶ村組合から府中用水土地改良区へ

②用水機の設置

- ・ 砂利採取による多摩川河床面の低下
- ・ 昭和23（1948）年 揚水機設置

③用水汚染問題

- ・ 昭和33（1958）年 ビクターオート工場排水流入問題
- ・ 昭和39（1964）年 湖南処理場汚水流入問題

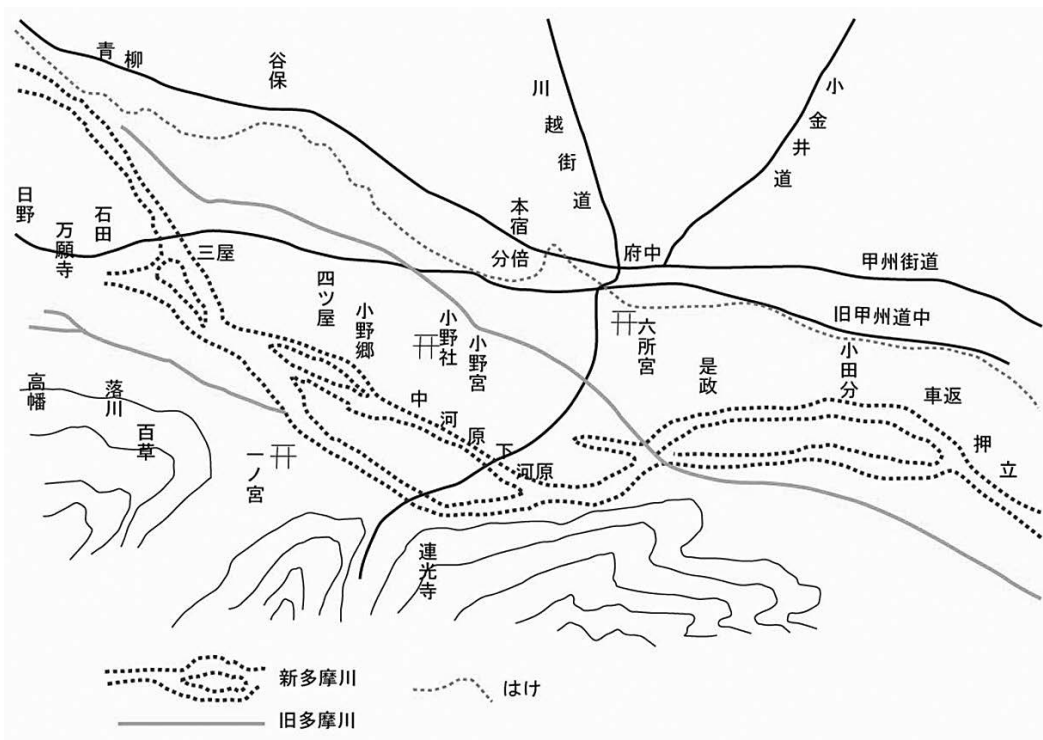
- ・ 昭和45（1970）年 カドミウム検出問題

④国立と府中との分離

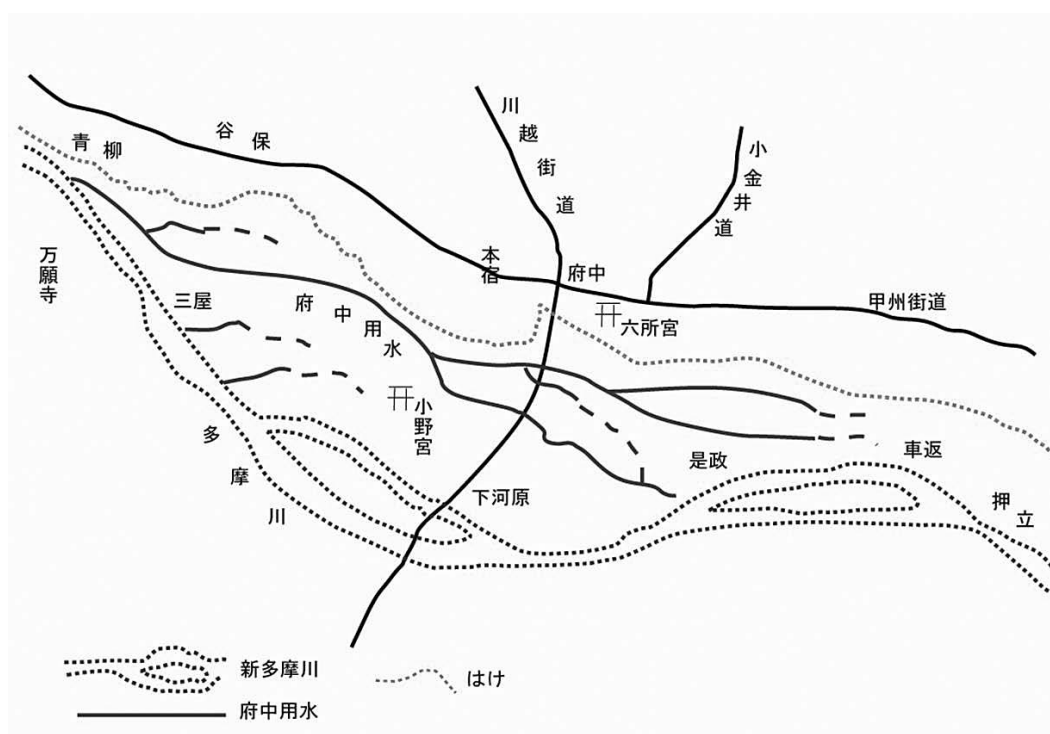
5. 府中用水のこれから

①変わる生活環境

②用水とのかかわり



新・旧多摩川流路図



府中用水流路図



玉川上水羽村取水堰にて、蛇籠と牛杵